

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



アブラマツの植樹作業に取り組む蔚県志願者協会のボランティア

Contents

- 第29回総会の報告 P2
- 大同緑化協力25年の軌跡 P3
- 第29回総会記念講演要旨 P4～P5
- GENなんでも勉強会参加者募集 P6
- オンライン・シンポジウム報告 P7



GEN公式サイトリンク

2023.7
212

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



緑の地球ネットワーク 第29回総会の報告



あいさつする前中代表 創造館5階研修室 A・Bと、オンラインを併用して開催しました。

総会に先立ち、大西敏一さんによる記念講演がおこなわれました（講演要

旨はP4～P5に掲載）。
6月17日（土）、緑の地球ネットワーク第29回総会が開催されました。会場は大阪産業

創造館5階研修室 A・Bと、オンラインを併用して開催しました。

【議事】
2022年度事業報告、決算報告・監査報告とその承認、2023年度事業計画と予算の提案とその承認、新役員の選出とその承認がおこなわれました。新役



員は以下のとおりです。

- 【第22期役員】
- 代表：前中久行
- 副代表：川島和義／高見邦雄／長坂健司
- 事務局長：東川貴子
- 会計：川島和義（副代表と兼任）
- 世話人：大原一晃／小倉亜紗美／河本公子／小西美保子／櫻谷し乃／高田望／鶴田惇／原裕太／弘世裕一郎／藤沼潤一／松永光平／松本美貴子／宮本敏幸／向井美香／村松弘一
- 監査：稲垣文拓／早草晋
- 顧問：桜井尚武／干場革治／藤原國雄

なお、町田良太さんが世話人を退任しました。

【懇親会】
総会終了後、近所の居酒屋で懇親会をおこないました。25名が参加しました。居酒屋での懇親会は4年ぶりでした。



金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPO法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合、寄付金となるのは、緑化基金、運営資金、おまかせ寄付と会費のうち一口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民には個人住民税の控除もあります。くわしくはGENまでご連絡ください。

また、GENでは書き損じはがき、未使用切手・古切手、使わない商品券などを回収しています。ご自宅に眠っている切手等がありましたらGENまでお送りください。

蔚県陽眷鎮で 植樹をおこないました

日本から長らくツアーを派遣できずにいますが、今年も現地では無事に植樹を終えることができ、写真を送って



てくれました。

2023年は、蔚県陽の眷鎮柳澗溝村でアブラマツを15haに18450本、白草坡村でサージ（沙棘）を15haに18450本、合計30ha、36900本を植えました。蔚県志願者協会のボランティアも参加して植樹作業をおこないました。陽眷鎮の植樹には、日中友好会館が実施する日中植林・植樹国際連帯事業の助成を受けています。



人の背丈より大きいアブラマツを植える

大同緑化協力25年の軌跡

日照が強く、夜間は低温

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で37回目です。（高見邦雄）

大同は北緯40度のラインをまたいでおり、市内の低いところでも標高が1000mを超えています。植物の育つ夏についていえることですが、日照が強くて時間が長く、夜間はストーンと気温が下がります。これが思いがけない効果をもたらします。

たいていの野菜が甘くておいしいんですね。私がそういうだけじゃなく、大阪天王寺にある大きな種苗店の女性経営者が中国に行ったら、でてくる野菜、でてくる野菜がとってもおいしかったんですって。で、私に、「あんなおいしい野菜の種はどこへ行ったら買えるんですか？」と尋ねました。私の答えは、「いえ種じゃなく、あそこの環境なのです」。その店で扱ってる種子も、大同にもっていくと味が化けますから。

日本のスイートコーンが栽培されることがあります。背丈は低いのに、1株で2本の充実した穂がとれました。地元のトウモロコシは背丈が高いのに、穂は1つしかとれない。地元の技

術者が悔しがらるから、「一人っ子政策だからしょうがない」とちゃかしました。でも、そのスイートコーンを日本で栽培すると、大きく充実する穂は1本だけで、2本目以降はちゃんと実がはいりません。

どうしてでしょう？ 冒頭でふれた条件がかかっています。大同の夏は日照が強くて長く、晴天がつづくので、しっかりと光合成が行われます。そして夜間は気温が下がるので、呼吸作用による消耗が少なくすみすみます。それによって、野菜が甘くおいしくなり、スイートコーンに2本の充実した穂がつくわけです。

それから、立花吉茂先生が感心しておられたのが、野草の花が大きく、色に透明感があって鮮やかなことです。たとえばヒエンソウ（デルフィニウム）、カンムリキンバイ、ヒゴタイなど。「悔しいけど、この花の色は日本ではだせません」と話しておられました。それも同じ理由からだそうで、人工的に日照を長くしたり、夜間の気温

を下げるには、コストがかかりすぎるのでした。

でも、ここで述べたことは、よほど雨に恵まれるか、人工的な灌漑が可能な場所でのことで、丘陵や山間の高所の村では、水がないために野菜はつくれず、栽培できるのはアワ、キビ、ジャガイモなどに限られます。早魃の年になると、それすら収穫できないことがしばしば。

そして冬は、期間が長く、日照時間が極端に短く、昼も夜も低温で、最低気温は零下20度以下に下がり、雪もほとんど降りません。ほんとに厳しいのです。



さまざまな実験・研修に使用した旧緑の地球環境センター 2022年10月撮影

大同での緑化協力についてYouTubeで動画を配信しています。右のQRコードよりアクセスできますのでぜひご覧ください。



夏季寄付のお願い

GENの活動継続のため、

みなさまのご協力をお願いいたします

いつもGENを応援していただき、ありがとうございます。中国を訪問できない期間が長引くなか、私たちの活動をなんとかここまで維持してきてくれたのは、みなさまからの会費や寄付があったからです。大変感謝しています。

今年度も国内での取組みとして、月1回のGENなんでも勉強会、GEN自然と親しむ会、国内のスタディツアー、週1回のメルマガの配信など、環境について学ぶ取り組みを継続します。黄土高原での緑化事業も引き続き実施しますので、みなさまにもできる範囲でのご協力をいただけたらうれしいです。

GENへの寄付は、苗木代や労賃など緑化プロジェクトへの寄付としての緑化基金、事務経費等の運営費としての運営資金のほか、用途不指定のおまかせ寄付がお選びいただけます。また、クレジットカード決済の場合は毎月一定額を自動引き落としされる継続寄付も受け付けています。

ご送金には同封の郵便振替の用紙を

ご利用ください。発送作業の都合上、一律に同封しますが、最近ご協力いただいた方には重ねてのお願いではありません。銀行振込でご送金いただく場合は、お名前、連絡先、寄付の用途をGEN事務所までお知らせください。

【銀行口座】
三菱UFJ銀行 阪急梅田北支店 普通 5284852 緑の地球ネットワーク
また、クレジットカード決済も可能です。クレジットカードでの決済はGENホームページの「応援する」ページよりお願いいたします。（<https://gen-tree.org/support/>）

【GENへの寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

GENは大阪市に認定された認定NPO法人です（期限は2024年4月8日）。個人によるGENへの寄付は税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄附金で、確定申告が必要です。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損



GEN第29回総会記念講演

鳥たちの不思議な能力と里山のシンボル「サシバ」の生態・保護・保全の実態
大西 敏一さん(バードコンサルタント)

総会に先立ち、記念講演がありました。今回はバードコンサルタントの大西敏一さんにお話しいただきました(文責=編集部)。公演の後半部分はYouTubeで公開しています。3ページのQRコードよりアクセスいただけます。

○鳥たちの不思議な能力



大西敏一さん

わたしは一年中現場に出て鳥を調べています。他にもバードウォッチングツアーのガイドや鳥に関する執筆など、鳥に飯を食わせてもらっています。私のGENとの関わりは2018年、中国で鳥の調査に参加したのがきっかけです。鳥はあまり調べられてない場所なので、ひょっとして私の大好きなムシクイというウグイスの仲間がいるかも、と思っ

て行ったら見事にいました。何がわからないところは調べれば調べるほど面白いです。今日は一人でも鳥が好きになる人を作って帰ろうという思いでお話しします。前半は鳥のすごさについて話します。鳥は全世界では10390種、日本では現在640種前後います。極寒の地、灼熱の地、高山、海にも住んでいる、多様性のある生き物です。世界最小のマメハチドリは体重2g、最大のダチョウは120kgあります。灼熱の大地で生きるロードランナーからマイナス50度の土地で生きるコウテイペンギンまで、様ざまなところに生息しています。ハチドリは1秒間に80回羽を羽ばたかせ、長時間飛び続けることができます。私は脊椎動物の最高の進化はハチドリじゃないかと思っています。

鳥の特徴として羽毛、翼、嘴を持っていますが、哺乳類であるコウモリにも翼があり、カモノハシにも嘴があります。鳥だけに共通する特徴は羽毛があること、これがカギです。鳥は羽毛を持ったことで世界中に分布を広げることができました。羽には飛ぶための正羽と体温調節のための綿羽がありま

す。コウテイペンギンは羽毛が密に生えており、皮下脂肪もあるのでマイナス50度の地でも暮らすことができます。鳥の羽はなぜいつもきれいなのか？ 羽毛が乱れても少し手入れすれば、羽枝にある細かいフックで固定されるのですぐ戻ります。羽の表面には細かい凹凸があり、さらに尾脂腺から出る油を身体に塗って水をはじきます。さらに粉綿羽という粉末になった羽毛を羽に塗って水や汚れをはじいています。

鳥の二大事業は換羽(羽の生え変わりと繁殖です。鳥は年に1~2回換羽をします。これにはすごくエネルギーを使います。繁殖期には鮮やかな色の羽の雄のオシドリも、繁殖期を終えると地味な色に生え変わります。

鳥の翼は生活によって形、長さが異なり、生活に最も適した形をしています。アホウドリの翼はグライダーのように長く、カワセミの短い翼は瞬発力があります。ペンギンは翼を使って海の中を飛ぶように泳ぎ、クロコサギは翼で陰を作り、餌をとります。フクロウは飛ぶ時に音がしないのでどこから飛んでくるか気づかれにくく、サイレントキラーと呼ばれています。ピロードのような、縁がギザギザの羽が翼を羽ばたかせる音を消しています。

鳥は嘴の形も様ざまです。ハタオリドリやサンコウチョウなどは嘴を器用に使って巣を作ることができます。嘴は食べる餌によって進化し、干潟のシギ・チドリの長い嘴は深いところにいる餌を捕まえることができます。カワセミは水に飛び込むときにほとんど水しぶきを立てませんが、新幹線500系はカワセミの嘴を応用してトンネルに入るときの騒音が解消され、時速300kmが出せるようになりました。ま

た、パンタグラフの騒音はフクロウの羽を応用して約30%減少しました。

鳥の目は紫外線も見ることができ、地磁気も見えているという説もあります。紫外線が見えることで雄雌の区別がつかます。オカメインコや九官鳥は紫外線を当てるとカラフルに見えるので、人間よりはるかに色鮮やかな世界を見えています。チョウゲンボウは紫外線が見えることで獲物のハタネズミなどの糞尿が金色に見えているので探しやすい。さらに地磁気を可視化できており、自分がどの方向に飛んでいるか把握しています。渡り鳥は星座もわかるし、風景も記憶しています。天候が悪くても、霧の中でも飛ぶことができます。

渡り鳥のキョクアジサシは毎年両極地を移動しており、長いときは9万kmの移動をします。30年ほど生きることで、生涯に270万kmの移動をしています。月と地球を4~5往復できる距離です。渡りをする前にしっかり食べて脂肪を蓄え、それをエネルギーに変えて飛びます。

鳥には肺のほかに気嚢があり、多くの鳥は9個気嚢を持っています。この気嚢の働きで、息を吸うときも吐く時も常に肺の中に新鮮な空気がある状態を保つことができます。無駄なく酸素と二酸化炭素を交換できるため、酸素ポンプがなくてもエベレスト上空など標高の高いところの飛行が可能な種もいます。鳥は紫外線、赤外線が見えて地磁気も把握し、さらにずば抜けた心肺機能があるので長距離飛行もできる。こんなにも様ざまな能力を有している鳥はすごいと思いませんか？

○里山のシンボルサシバの生態

サシバは中型のタカで、熱帯系の鳥です。群れで渡りをし、日本など極東地域で春から夏に子育てをし、秋に南へ渡って冬を過ごします。生息地は里山を代表とした低山や丘陵の森林、水田周辺の林縁部などで、9割が標高



雄のサシバ

500m以下の場所で繁殖します。食べ物は季節によって変化しますが、爬虫類、両生類、小型哺乳類、昆虫などを食べるので、繁殖に必要な獲物を得るためには多様な環境が必要です。

サシバは近年個体数が著しく減少しています。1970年代には、渡りの通過地点である伊良部島で最大5万羽いたものが、2022年の調査では8219羽に減少しました。大阪でもかつてはトビに次いで多いタカでしたが、2014年には大阪府のレッドリストの絶滅危惧種I類に指定されました。府内の生息状況が把握されていなかったため、「サシバプロジェクトin大阪」を立ち上げ、府内の生息状況調査を始めました。まず、猛禽類愛好家からのデータ提供やアドバイザーの協力を得て、2000年から16年間のデータを収集、市町村ごとのペアの生息数を評価しました。その結果、北部3市2町と南部6市3町、合計9市3町で計35ペアの生息が確認されました。

特に南部地域の情報が不足していたので、2015年~2017年、大阪府南部で現地調査をおこないました。40年前の調査では、南部に13か所、北部に5か

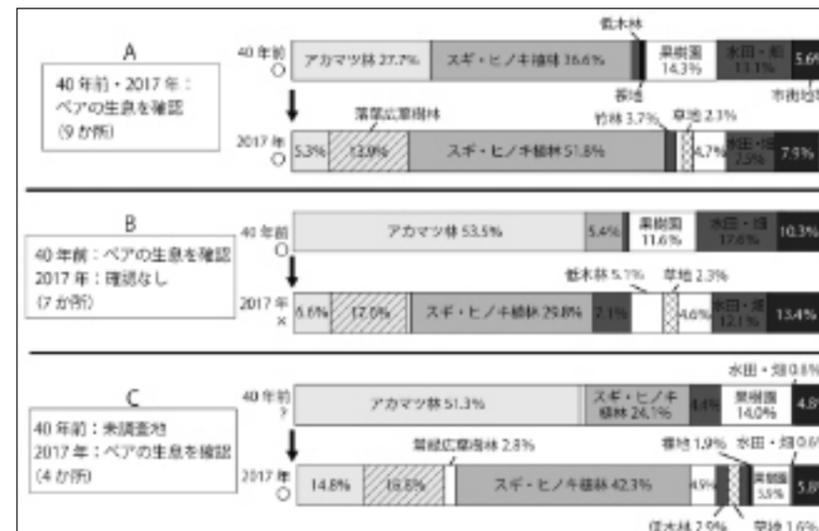
所、36のサシバのペアの生息が確認されていましたが、現在ではわずか9ペアしか確認できず、4分の1に減少しました。

減少の要因はいろいろありますが、環境の変化に注目してみます。40年前と現在の航空写真を見比べると、現在は森林の被覆度が高くなり、一見サシバに好都合に見えますが、林相や農業環境が変化しておりサシバに適さない状況を作り出していることがわかりました。また、かつてサシバはアカマツ林に営巣していましたが、マツ枯れによりアカマツ林が減少し、落葉広葉樹が増えています。アカマツ林や水田が減少し、市街地や草地、低木林、竹林が増加しています。スギ・ヒノキの高木化、林業の衰退など里山の荒廃で狩りができる場所が減ったことがわかります。今回の調査地域を以下の3つに分け、その環境変化を以下のようにまとめました。

- A: 40年前も現在もペアの生息を確認
- B: 40年前ペアの生息を確認、今回は確認なし
- C: 40年前未調査、今回ペアの生息を確認。

Aは40年前からアカマツ林と市街地の比率が低く、スギ・ヒノキ植林が多い山地環境です。Bは40年前はアカマツ林と市街地の比率が高く、スギ・ヒノキが少ない人里環境です。Cは40年前から水田、市街地が少なく、裸地の

ペアの生息別に見る40年前と現在の植生の変化



比率が高い環境で、以前は注目していなかった環境です。Cで4ペアの生息を確認しましたが、乾性環境を主要な餌場としていました。まとめると大阪南部では40年前と比べてペアの生息数は4分の1に激減、丘陵地の里山環境にいたサシバがいなくなり、山間地の里山に生息し、乾性環境を狩り場とする傾向がみられます。サシバの減少を引き起こす要因として、開発などによる環境の変化、里山環境の荒廃、農業の変化に加えて人的圧力、電気柵、シカ柵の設置により餌が取れないなどの影響があるのではと思われます。今後も継続的な調査を続け、保全に役立ちたいと考えています。

○サシバの保護・保全

サシバの保全には里地里山の保全、再生が必要です。自治体の取組として、栃木県市貝町ではサシバが舞う里地里山を基盤に環境と経済を好循環させることを目指し、「サシバの里協議会」を設立しました。体験型道の駅「サシバの里いちかい」や、「サシバの里自然学校」を作り、エコツアーを実施するなど観光資源にしています。また、サシバは渡りをする鳥なので、国際的な取り組みも重要です。中継地、越冬地でのエコツアー、国際サシバサミットの開催などを行っています。今年10月には台湾で第3回を開催する予定です。

サシバプロジェクトin大阪でも、サシバを知ってもらうための取組みとして現地調査や体験学習会など、啓発活動に力を入れています。里山の保全活動をしていてもサシバのことを知らない人もけっこういるので、調査や保護活動に加わって、知ってもらう活動をしています。サシバの保護は多様な環境の保護とも関連しているので、多様な環境を守ることがサシバの保護に繋がります。これからも意識を持って取り組むことが大事ではないかと思いま

7月以降のGENなんでも勉強会オンライン、東北海岸林再生活動のご案内です。ぜひお気軽にご参加ください。右のQRコードからもお申込みいただけます。



GENなんでも勉強会 オンライン7月 知ると楽しい 公園のあれこれ

- 日本の公園制度の始まりとされる明治6年（1873年）の「太政官布達」が発せられてから、今年で150年を迎えます。この節目の年、意外と知らない日本の公園制度や、堺市にある浜寺公園の歴史などについて、GEN代表の前中久行さんにお話しいただきます。
- 日時：7月27日（木）19時～20時30分
- 手段：ウェブ会議システムZoom
- 講師：前中久行さん（GEN代表）
- 参加費：無料
- 定員：100名
- 申込み：以下のいずれかの方法でお申込みください。
- ①7月25日（火）までにメール（gen@gen-tree.org）またはGENのホームページより申込む。メールの場合は件名を「7月オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入してください。
- ②7月26日（水）までにイベント管理サイトPeatixより申込む（https://gennandemo22.peatix.com/）

GENなんでも勉強会 オンライン8月 4年ぶりの中国訪問 報告会

- ようやく8月上旬にGENスタッフが北京、大同、蔚県を訪問します。4年ぶりの中国、一体どうなっているのでしょうか？ それぞれの視点から見た中国の今をご報告します。
- 日時：8月30日（水）19時～20時30分ごろ
- 報告者：高見邦雄さん（GEN副代表）、高田望さん（GEN世話人）、東川貴子さん（GEN事務局長）
- 手段：ウェブ会議システムZoom
- 参加費：無料
- 定員：100名
- 申込み：以下のいずれかの方法でお申込みください。
- ①8月28日（月）までにメール（gen@gen-tree.org）またはGENホームページより申込む。メールの場合は件名を「8月オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入してください。
- ②8月29日（火）までにイベント管理サイトPeatixより申込む（https://gennandemo23.peatix.com/）

GENなんでも勉強会 オンライン9月 気候変動が中国古代文明の 歴史を変えた ～それは黄土高原から始まった

- 気候変動と中国古代文明史について学んでみませんか。舞台は黄土高原、古代の都市遺跡や馬の牧場、秦はなぜ天下統一できたのか。なぜ漢王朝が減び「三国志」の時代になったのでしょうか。「中国古代文明史の変動は黄土高原から始まった！」をキーワードに、歴史学者の村松弘一さんにお話しいただきます。
- 日時：9月28日（木）19時～20時30分ごろ
- 講師：村松弘一さん（淑徳大学人文学部歴史学科教授）
- 手段：ウェブ会議システムZoom
- 参加費：無料
- 定員：100名
- 申込み：以下のいずれかの方法でお申込みください。
- ①9月26日（火）までにメール（gen@gen-tree.org）またはGENホームページより申込む。メールの場合は件名を「9月オンライン勉強会参加希望」とし、本文にお名前を記入してください。
- ②9月27日（水）までにイベント管理サイトPeatixより申込む（https://gennandemo24.peatix.com/）

国内スタディツアーのお知らせ
コウノトリの郷見学ツアー

○日程：2023年10月14日（土）～15日（日）

○場所：兵庫県立コウノトリの郷公園（兵庫県豊岡市祥雲寺128番地）

※詳細は次号でお知らせします

自然と親しむ会 中止しました

6月3日（土）に予定していたGEN自然と親しむ会「初夏の大仙公園を歩く」は講師の体調不良のため中止しました。



それぞれの視点からの中国の環境協力 オンライン・シンポジウム報告

5月13日（土）、オンライン・シンポジウム「環境に国境はない！ 相互理解と国際協力の出発点」をおこない、59名が参加しました。

パネリストの高見邦雄さん（緑の地球ネットワーク副代表）から大同・蔚県での緑化協力について、染野憲治さん（早稲田大学現代中国研究所招聘研究員）から政府レベルの日中の環境協力について、宮崎猛志さん（国際ボランティア学生協会理事）からは日中の大学生の緑化協力と交流についてお話を伺い、それぞれの立場から中国での環境協力を通じて見えてきたものについて、写真等を交えてご紹介いただきました。

後半はコーディネーターの原裕太さん（東北大学災害科学国際研究所助教）が中心となり、パネルディスカッションをおこないました。活動を始めた当初と、交流を続けてきた後のお互いの意識の変化や、これからの日中の環境協力についてなど、参加者からの質問に答えるかたちで議論を深めました。

今回のオンライン・シンポジウムはYouTubeでは前半・後半に分けて公開しているほか、GEN会員の方はホームページの「会員さま限定ページ」からもご覧いただけます。GEN公式YouTubeは3ページのQRコードよりアクセスいただけます。

同級生と植えたマツの成長に感激 ト 雁（山東青年政治学院特任教授）

今回のシンポジウムの聴講をさせていただき、感謝いたします。大変勉強になりました。

2006年、我ら長春外国語学校63級小学部日本語クラスの同級生だった一行が大同に行き、一緒に黄色い大地にアブラマツを植えることができ、高見さんたちが30年間尽力なされた中国黄土高原緑化事業に少しでも気持ちを捧げたことは、クラスメート一同の貴重な思い出になっています。

16年過ぎ、アブラマツが立派に大きく育ち、李建華さんが孫娘を連れて松林を見に行き、子供が先代たちの成果を大切に思ってくれたのを、みな嬉しく感じました。

30年間、GENは様々な困難を乗り越え、自分たちの力で中国の辺鄙な地域で地元住民の協力を得ながら、日本から専門家やボランティアを集め、6000ha以上の植林をおこない、周りの環境改善に大きな貢献をしました。偉大な事業だと讃えられるに値すると思われれます。高見さんご一同の高尚なお心向きと、献身的活動およびその成果に感服し、同時に多くの若者にも学習してほしいと願っております。

「環境に国境はない」というスローガンのとおり、中国向けのPRや関連組織等との紐付けの活動も視野に入れ、更に若い世代の参加ができればと願いつつ、GENの更なる発展を祈念いたします。

大切にしたい、中国での出会いと経験 川島 涼（国際ボランティア学生協会24期OG）

今回初めてGENのオンライン・シンポジウムに参加させていただきました。

私自身、大学生の頃（2015年～2016年）にIVUSA（NPO法人国際ボランティア学生協会）の活動の一環で内モンゴル自治区・吉林省へ伺い、現地の同年代の学生と植林活動を通して交流いた

しました。

寝食を共にし、互いの文化や考え方を知り、【環境問題】という世界共通の課題に向き合いながら過ごした時間は、人生の中でも貴重な体験の1つであり、しがらみのない次世代の学生に繋げ広げていきたいと感じる活動でした。



私自身、活動に行く前は、近くで遠く感じていた中国に足を運ぶことだけでも緊張感がありましたが、活動最終日の帰りのバス内で、別れを惜しみ日本の学生皆で涙したことは忘れられません。活動を通して出会った多くの朋友との思い出が中国という国を好きになるきっかけを作ってくれましたし、今後さらに多くの学生に交流の機会が増えることを願っています。

社会人になって中国国籍の方と話す際は必ず当時の活動を思い出しながら話します。中国で覚えた「朋友」という歌を歌うと、皆さん笑顔になって一緒に歌ってくれます。なかなか頻りに中国に行く機会はありませんが、これから先も中国の皆さんとの交流の機会は大切にしていきたいです。

シンポジウムを通して当時の活動の様子を鮮明に思い出すことができました。この度は貴重な機会に参加させていただきありがとうございました。



第29回総会にお寄せいただいたメッセージの一部をご紹介します。

○あつという間に30年ですね。国際放送日本語部の王小燕さんが、玉淵潭公園や盧溝橋の桜も今は大きく育っていると教えてくれました。（Y.M）

○「石の上にも三年」ならぬ「石の上にも三十年」。みなさまのご努力に敬意を表します。樹木は裏切らないですね。（K.M）

○日中関係冷え込むなか、自然環境という人びと共通の課題に取り組むGENの活動はますます重みを増しています。人と人、人と自然を結ぶ活動が長く続くことを願います。（M.M）

○いつも会報ありがとうございます。会報を読むひとと（8ページへ続く）

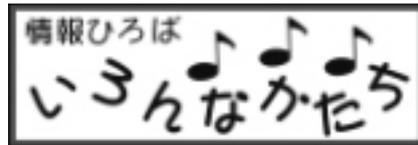
参加者募集 東北海岸林再生活動

GENは東日本大震災の津波被害をうけた東北海岸林の再生活動をおこなっています。4年ぶりに仙台周辺を訪問するツアーをおこないます。これまで植樹した海岸林のマツは元気に育っていますが、ゆりりん愛護会によるとクズなどの草が茂り、その管理が大変とのこと。被災から12年が過ぎた東北の現状を知り、植栽地での作業に参加しませんか。参加をご希望の方は8月23日（水）までにGENまでご連絡ください。

- い。
- 日程：2023年9月2日（土）午前中仙台駅集合～9月3日（日）夕方解散
- 定員：8名
- 内容：ゆりりん愛護会の植樹現場視察・作業、被災地見学
- 参加費：18,000円程度の見込み（ホテル・レンタカー・9月2日夕食～9月3日昼食までの食費・保険料を含みます。現地までの交通費は含みません）

(7ページから続く) きは子育ての慌ただしさを忘れて心が中国にワープしています。(S.F)

- 黄土高原に行って20年が経ちました。現在私は某県の教育委員会で働いています。新型コロナの影響もあり、現地(特に海外)へ出向いての体験的な活動の機会が減っていることが残念です。マスク生活が収束し、再び多くの若者、特に子供たちにはぜひともスタディツアーを体験してもらいたいです。わたしはこれからも末永くGENの活動に関心を持ち続けたいと思います。(M.E)
- 今年の4月から教員に異動になりましたが、会員でいることは生徒に語るよい材料でもあり、具体的に話せることは個人的には強みだとも思っています。なかなか時間が取れませんが、またツアーに参加したいです。(K.O)
- 会員数の減少が続いていますね。中国での緑化協力という中心事業に共感を得にくくなっているのでしょうか。会員が減ったなら減ったりのあり方を探るしかありません。(Y.J)
- 中国は相変わらずなかなか行きづらい国ですが、中国からの留学生はものすごい勢いで入国しています。今時の中国の若者の感覚では「緑は生まれたときから割合身近にあるもの」のようですね。(R.M)
- オンライン会報になってから、紙とはまた違ってたくさんの方に触れられるようになり、「あ、このセミナー行けそう!」とか「この動画見よう!」と楽しませていただいております。これからもよろしくお願いたします。(M.O)



* 当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
* 当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

国天然記念物指定100周年
記念シンポジウム
和泉葛城山ブナ林
これまでの100年 これからの100年

天然記念物に指定された和泉葛城山のブナ林の100年間と今後の展望を共有するシンポジウムです。

- 日時：8月26日(土) 13時~16時(12時開場)
- 会場：大阪市立自然史博物館講堂
サテライト会場：きしわだ自然資料館1階多目的ホール/YouTubeの大阪市立自然史博物館チャンネル(<https://www.youtube.com/c/大阪市立自然史博物館/>)で同時配信。終了後、大阪みどりのトラスト協会のYouTubeチャンネルでも公開予定。
- 参加費：無料(ただし、自然史博物館の入館料が必要)
- 定員：170名(当日受付/先着順)
- 内容：基調講演1「天然記念物ってなに? -天然記念物の保護の意味-」田中厚志さん/基調講演2「ブナ林に迫る危機と協働による保全」石原正恵さん/パネルディスカッション「和泉葛城山ブナ林これまでの

100年これからの100年」パネリスト：田中厚志さん、石原正恵さん、高原光さん、田中正視さん、土井雄一さん、幸田良介さん/コーディネーター：佐久間大輔さん

- 主催：岸和田市教育委員会、貝塚市教育委員会、(公財)大阪みどりのトラスト協会
- 協力：緑の地球ネットワークほか
- お問合せ：(公社)大阪みどりのトラスト協会 (URL <https://www.ogtrust.jp/> tel.06-6614-6688 fax.06-6614-6689 e-mail:midori@ogtrust.jp)

「南京の記憶をつなぐ2023」9月集会
今こそ戦争責任を問う!
一戦争は個人を翻弄する一
内海愛子さん講演会

歴史社会学者の内海愛子さんと戦争裁判ではだれがだれを裁いたのか、「死の鉄路」といわれる泰緬鉄道の現場から考えます。また、泰緬鉄道の連合軍捕虜収容所の捕虜監視員となり、元BC級戦犯となった伯父をもつ姜秀一さんのお話もあります。

- 日時：9月9日(土) 14時~(13時30分開場)
- 会場：国労大阪会館3F大会議室(JR天満駅から徒歩5分)
- 内容：講演「泰緬鉄道~捕虜虐待と戦争裁判」内海愛子さん(早稲田大学平和学研究所招聘研究員)/お話し「朝鮮人元BC級戦犯者の伯父への思い」姜秀一さん(NPO法人猪飼野セツパラム文庫運営委員)
- 資料代：1,000円(学生500円)
- 主催・問合せ：南京の記憶をつなぐ2023 tel.090-8125-1757

会費・購読料・寄付・物品・ボランティアなど協力者のお名前('23.5.2~'23.6.30、50音順、敬称略)